

あなたは  
どれだけ  
知っている?

# ZERO

An Investigation into

# 9-11

世界で話題の911ドキュメンタリー映画の決定版

## ZERO: 9/11の虚構

米国同時多発テロが起きたのは  
2001年9月11日——あれから9年。

米国政府の公式説や  
それをそのまま伝えた報道だけを信じてきたが  
今こそ、向き合うときではないのか?

何の確証もないまま、戦争を始めたことに。

原版製作（2007年秋・イタリア）以来、

ローマ国際映画祭（2007年10月）

ブリュッセルEU議会場（2008年2月）

ロシア国営放送（2008年9月）

で上映・放映された注目の長編ドキュメンタリー。

事件後9年を経た2010年9月11日以降、日本語版好評上映中！

世界の現実を知りたい、見つめ直したいあなたに贈ります。

監督：フランコ・フラカッジ／フランチェスコ・トレント

脚本：ジュリエット・キエザ／フランコ・フラカッジ／パオロ・ヨルミ・ビアンキ

原版（イタリア語）制作：TELEMACO 2007年／イタリア／105分／カラー

英語版制作・国際配給：MercuryMedia International Ltd. (英)

日本語版制作・国内配給：ハーモニクス・プロダクション

日本語版宣伝・国内配給：株式会社リンク

協力：東京ピースフィルム俱楽部／ワールドフォーラム／911冤罪被害者支援の会

＜日本語版制作スタッフ＞

ディレクター：きくちゆみ

翻訳：童子丸開／きくちゆみ

字幕・デザイン：フジワラトシカズ

オーサリング：トリオデザイン

宣伝・配給協力：浅野禎信

「おどろくほど重大な『矛盾』『省略』『食い違』の連続である」  
『イル・コリエ・デ・ラ・セラ』（イタリア日刊紙）

### 9.11の‘真実’に気づいた人、急増中！

2010年9月の時点では「9年もたった今、9.11なんて‘危険な’テーマをかけてくれる映画館はあるんだろうか、観に来てくれる人はいるんだろうか」といった恐るおそるのスタートでしたが、ふたを開けると嬉しい誤算。先行上映2館（9/11～9/24 東京都写真美術館ホール、および10/2～10/15 シアター・イメージフォーラム）において26上映日で満席・ほぼ満席合わせて13回、平均入場率85%、入場者2,700名超という予想外の数字を記録しました。2011年は事件後10年の節目。9/11をテロ事件話として幕引きさせないために、マスクが書けない‘真実’の流通に、どうぞあなたも参加してください。

『ZERO: 9/11の虚構』公式サイト

<http://zero.9-11.jp>

世界で話題の911ドキュメンタリー映画の決定版

# ZERO: 9/11の虚構

ドキュメンタリー映画『ZERO: 9/11の虚構』が描くのは、9.11事件の公式説明に対する徹底的な問い合わせだ。2007年にイタリアで制作された本作は、政府とメディアが伝えてきた「同時多発テロ」とはどうしても合致しない科学的データと、にわかには信じがたい衝撃の証言を次々と映し出す。

おもな証言者：肩書きはZERO制作当時】

ジュリエット・キエザ（欧州議会議員）

ゴア・ヴィダル<sup>※1</sup>（小説家、劇作家、評論家）

ダリオ・フォー<sup>※2</sup>（ノーベル文学賞受賞者）

スティーヴン・ジョーンズ（元ブリガムヤング大学教授）

デイヴィッド・グリフィン（クレアモント神学院名誉教授）

その他、米政府および米軍関係者、遺族、事件の目撃者たち

※1 ゴア・ヴィダル：アメリカ小説家、劇作家、評論家。

※2 ダリオ・フォー：イタリアの劇作家、演出家、俳優、舞台美術家。

多年の魔術喜劇に対する実績を評されてノーベル文学賞を受賞（1997年）。



「その結果は、驚くほど重大な《矛盾》  
《省略》《食い違い》の連続である」

——『イル・コリエレ・デ・ラ・セラ』（イタリア日刊紙）

もし彼らの言うことが本当だとしたら、  
9/11とは、いったい何だったのか？

## あの日 本当は何が起きたのか あなたはどれだけ知っている？

### 用語解説

#### NIST

米国国立標準技術院

911事件では WTCビル崩壊の原因を調査したが、報告書発表が予定より大幅に遅れ、内容も矛盾だらけだと批判を浴びた。

#### WTC

世界貿易センター

マンハッタンの一画にあつた七棟の高層ビルを擁するオフィスや商業の複合施設。2001年9月11日、北タワーにアメリカン航空11便が、南タワーにユナイテッド航空175便が突入したとされ、両タワーとも約1時間後に崩壊。同日夕方には第7ビルも崩壊した。

NIST REPORT

#### FAA

米連邦航空局

航空管制と航空輸送の安全管理を司る運輸省の下部機関。全国各地の管制センターを統括する。事件当日、問題の旅客機4機の通報が遅れたと批判を受けた。

#### NORAD

北米航空宇宙司令部

米国とカナダが共同運営する防衛組織。司令部はコロラドスプリングスのビータソン空軍基地。911事件発生の通報時刻について、9/11調査委員会は最終的に NORAD報告も FAA報告も無視し、最初の一番機以外は事前通報が皆無だったと発表した。

#### SOP

軍の標準作戦手順

軍の標準作戦手順、決まり事。2001年9月11日は SOP が無視されたと思われる出来事が相次いだ。

#### メタログラフ 金属組織解析

#### MPRI

軍事専門人材派遣会社

### おもな登場人物



ジョージ・W・ブッシュ  
第43代米国大統領



オサマ・ビンラディン  
アルカイダのリーダー  
とされている

ナフィーズ・モサデク・アーメド サセックス大学近代史学教授

ロバート・フィスク インディペンデント紙記者

ブライアン・クラーク 南タワー生存者、ユーロプロローカーズ社主

ダリオ・フォー ノーベル文学賞受賞者

フランク・ディ・マルティーニ 世界貿易センター建築主任

スティーヴン・ジョーンズ博士 物理学者（元ブリガムヤング大学教授）

ルイ・カーティス・ブルーフィールド 消防局員

モーガン・レイノルズ 労働省高官（ブッシュ政権）

レス・ジェイミソン ニューヨーク911真相究明運動家

ポール・クレイグ・ロバーツ博士 財務次官（レーガン政権）

ケヴィン・ライアン 元アンダーライターズ研究所主任

パオロ・マリーニ イタリアの冶金学者（イタリア素材開発センター）

ウイリアム・クリスティン CIAに29年間勤務

ジャネット・マッキンリー WTC南タワー向かいの住人、生存者

デイヴィッド・レイ・グリフィン博士 911委員会報告書削除と歪曲（未邦訳）著者

ウイリアム・ロドリゲス 世界貿易センター元消掲員、生存者、“国民的英雄”

ラス・ウッティンパーク機長 米空軍、パンナムとコナイトで35年のパイロット歴

バーバラ・ハニガーネ 軍事ジャーナリスト、「October Surprise」著者

ロビン・ホード ポストンセンター航空管制官、飛行教官（11年勤務）

ゴア・ヴィダル 小説家、劇作家、評論家

ロバート・ミュラー FBI長官

ジュリエット・キエザ ジャーナリスト、欧州議会議員（制作当時）

マイケル・スプリングマン 1987-89年の在ジェッタ米国総領事館ビザ発給担当主任

コリン・ロウリー ミネアポリスFBI捜査官（24年勤務）

シベル・エドモンズ 元FBI翻訳官

ロバート・マクルウェイン 911で死亡したロバート・マクルウェインJr.の父親

「日本の人々に言いたいのはただ一つ、「彼ら」つまり9・11を策した人たちは、人類にとって非常に危険な存在だ、ということです。彼らはいまでも権力ある地位にいて、強大な力を持っています。また新たな惨事を次々引き起こすかもしれません。彼らを阻止することが、現代を生きる私たちの責務です。私たちは自分や子どもたちの未来を守らなければならないのですから。」

ジュリエット・キエザ

（ジャーナリスト/前欧州議会議員/共同制作者）

『9・11の矛盾』（緑風出版）を参考に作成しました。

監督：フランコ・フラカッジ／フランチェスコ・トレント 脚本：ジュリエット・キエザ／フランコ・フラカッジ／パオロ・ヨルミ・ビアンキ 出演：ジョージ・W・ブッシュ、オサマ・ビンラディン、ナフィーズ・モサデク・アーメド、ロバート・フィスク、ブライアン・クラーク、ダリオ・フォー他 2007年／イタリア／105分／カラー

日本語版制作・配給：ハーモニクス・プロダクション 日本語版宣伝・配給：株式会社リンク 協力：東京ピースフィルム俱楽部／ワールドフォーラム／911冤罪被害者支援の会